

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル かえでユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	令和7年 3 月 3 日	評価結果市町村報告日	令和 7年 5月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和7年 4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協力体制も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握に努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺はこの数年で住宅化が進み、訪問するごとに景色が変化しています。入居者にとっても地域であるこの地での散歩では、「ここは駅の前ですよ」「この辺りは以前は田んぼでしたね」等、職員の声掛けをしながら周辺の季節の花を楽しんでおられる様子が聞かれました。2ユニットでの生活が営まれている事業所では、協力しあいながらもそれぞれの生活が尊重されており、ユニット間が「お隣り」付き合いのようでした。入居者の生活は基本的に自由であり、訪問時も塗り絵や折り紙を楽しむ方、部屋で休まれる方等、それぞれの穏やかな生活が送られている様子が見えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様が中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。	入居者は町の住民であり、住み慣れた地域での生活が営まれている。入居者それぞれを尊重し、入居者を中心とした生活ができるよう職員間で理念を共有し、支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。必要に応じて面会をホールでしていただいたり、居室の窓越しなど工夫しています。	地域の一員として町内会にも加入し、区長・隣保組長の訪問もみられる。近隣の花が咲く時には散歩へ出向いたりドライブを楽しむ等、地域の一員として日常生活が営まれている。	事業所周辺は急激な宅地化が進んでおり、年々景色の変化もあるようです。散歩の際には職員から「この辺りは以前は田んぼでしたね」等、地域での生活を思い起こすような声掛けもされていました。入居者と地域のつながりを感じる取組みの継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。	年6回を基本とし開催している。会議では事業所の現状等報告だけでなく、入居者の活動報告、入居者の生活や課題等に関わる職員の取組み等、具体的な報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながらまた、役場の事業計画にも参加、それ以外にも質問・相談・報告を行い、その都度連携を取っている。	日頃は報告・相談等を行っており、運営推進会議時では事業所の実状や取組みを伝えている。昨年度は町より運営指導も迎え、改善が必要である事項は職員全体で共有し、対応を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないようにミーティングで発言できる場を設けている。	事業所全体でケアの統一化を図り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。年4回身体拘束適正化検討委員会を開催している。研修実施の際は、「研修・成果確認シート」を記載することで自身の介護・職務等を振り返る機会を持っている。	コロナ禍以降、各自資料配布による研修の場合もあるようですが、職員間で集まり、意見を出し合い、意見交換する研修も計画されてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権等について学び職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様へ十分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や介護報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し苦情や不満など題し易いようにしている 入居者のご家族からも入居費の支払いで訪問される際、相談や意見を共有できる関係づくりをしております	殆どの家族において月1回以上の来訪がみられ、職員・管理者と話す機会を持つことで意見を表しやすい関係作りに努めている。直接家族と話すことで家族の様子も分かり、入居者の現状を直接見て頂くことで情報共有にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為に努力をしている。	日常業務の中で職員は管理者へ意見を直接伝えることができる体制である。職員の意見や提案、必要事項は申し送りやノート、毎月のミーティングを利用し共有している。必要に応じ管理者より法人へ報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、各自スタッフと相談、面談も受けながら残業した時は、手当てを付ける等、労働条件の整備をする事で、やりがいある職場になるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。両ユニットで周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと連携を取り、困難事例や職員間の問題がある場合は検討し話し合っている。		

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせ軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で近況報告し、安心して頂くと共に、ご家族様との絆を大切にし、ご家族だけの時間も提供する。ご家族の協力のもと一体となって入居者を支えている事を理解していただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の今までの繋がりが継続して出来るように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹、子供様など日時を合わせていただけるよう支援したり、ご家族とのふれあいを大切にしている。	入居者の家族との関係が希薄にならないよう配慮している。以前からの馴染みの病院へ家族介助により通院したり、家族との外食、孫・ひ孫の来訪が見られたりと、入居者それぞれの生活に合わせた支援を行っている。散歩の際には入居者の親戚の方に会うこともあり、挨拶を交わす姿も見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押してあげたりなど様子を見ながら、手を差しのべられる方もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。	日々の職員の寄り添い、日常会話等で聞かれた言葉・仕草等を大切に、記録し、申し送り等で共有している。家族来訪の際にも報告し、入居者本位の生活となるよう検討を行っている。事業所には移動販売車の訪問もあり、その時に望む物を自ら選ぶ入居者もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様から情報でアセスメント、フェイスシート作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。	介護計画の短期目標の評価・モニタリングは入居者それぞれの担当職員を中心に行っている。入居者の生活状況や困り事をまとめた「状況報告書」を毎月作成して家族へ渡し、共有を行っている。体調変化時には都度カンファレンスを行い、現状に即した介護計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るよう努めている。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しませております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又、往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ています。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。定期受診等、協力医への通院は職員付き添いも行うが、他科も含め家族協力による通院をされる方も複数おられる。受診結果は家族にも報告している。体調管理は毎日行っている。医師と相談し、薬を減らすよう取組んだ例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行つて様子を伺っている。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所でできる事を説明し、話し合つて方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針と事業所の対応は入居時に説明している。体調が変化した際には話し合いを重ね、家族の意向を確認し、事業所で対応ができる間は医師等関係者と連携し支援を行っている。現状は、医療措置が必要となった際には入院を選ばれる例が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練を行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練地域の方々の支援も受けながら実施しています。日中・夜間の想定し、年2回の消火、通報、避難訓練を実施し、実際に、安全にすばやく対応できるように取り組んでいます。	入居者も参加し行う昼及び夜間想定での年2回の消防訓練には消防署の立会いもあり、講評を得ている。	2ユニットであることから協力体制もとられています。災害が起こりにくい地域ではあるようですが、有事に備え、特に職員数が限られている夜間帯等、様々な想定のものとの訓練の工夫に期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。	入居者の生活は基本的に自由であり、一人ひとりの人格や生活歴等に配慮した対応を行っている。事業所は住宅地であるため、特に声の大きさや声掛け等には気をつけるよう職員間で繰り返し共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服薬等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいる。(訪問理容も利用している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。	各ユニットそれぞれで職員による手作りの食事を提供している。その日の入居者の体調等で食事形態にもこまかに対応できている。現在は下拵えや片付け等手伝いを頂ける入居者もおられる。季節行事や誕生会等の特別メニューも喜ばれている。食事時間も自由で、入居者の起床等生活の流れを大切にし、個々に合わせた支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやオムツを確認したり、オムツ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。	昼間はできるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。トイレには分かりやすい表示をしている。夜間ポータブルトイレを利用される入居者では、昼間は壁際に寄せる等プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをしてもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。	当日の体調や意向にも配慮し入浴支援を行っている。安全に配慮し、入居者の身体状況に合わせて二人介助を行う場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、健康ウォークに参加した事もあります。	車椅子利用者が増えたこともあり、外出は個別支援が中心であり、近隣の散歩等を行っている。家族の協力もあり外出される方もおられる。近隣は住宅化が進んでおり、安全に配慮しながら道路沿いの季節の花を楽しむ等行っている。桜の季節には花見ドライブにも出向いた。	

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払いするなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたりと支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来るようになっていきます。台所での様子や準備に食器を洗う音などが聞こえ、生活感を感じられます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。	車椅子利用者や独歩の方もおられるため、安全に配慮しスムーズな移動ができるようにしている。壁には季節の飾りつけがなされ、運営推進会議でも職員・入居者の取組みを報告した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトをしており、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。夜間に使用するポータブルトイレは昼間は壁に寄せたり、オムツや私物が入り口から見えづらいうようにベッド奥にスペースを設ける等、居室担当を中心に居室の整理に取組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置してあり、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル さくらユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	令和7年 3 月 3 日	評価結果市町村報告日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 7年 4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協力体制も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握に努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム菊陽スマイル

作成日 令和 7年 5月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	入居者と地域のつながりを感じる取り組みを今後も継続できるように	地域の行事への参加と取り組み 外出行事や個別の散歩や楽しみを作る	施設隣の公園へ散歩と子供たちとの触れ合い 花見など季節ごとの行事へ個別対応だけではなく、両ユニットで参加も予定しています	1か月
2	6	研修会にてケアの統一を図っているが意見を出し合い意見交換する研修を計画してはどうか	ユニット間で勉強会を実施することもあるが意見交換をできるように取り組む	研修会など全体での研修の機会を増やし両ユニット間で情報と意見の交換をできるように取り組みます	1か月
3	35	職員数が限られている夜間帯等の様々な想定のもとでの訓練を取り組んでみてはどうか	年二回の消防訓練を実施しているが夜勤帯の災害対策に取り組めます	夜間帯は2名の職員体制であり、実際に夜間想定での訓練を防火管理者へ次回実施依頼 また、夜勤専従者も訓練の参加予定	3ヶ月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。